

ふぎをいだすなり。

わらはのさうぞくあこめはねりたれども、かざみうへのはかまはすゝしなり。

〔百練抄後四一條〕長元三年四月十五日、賀茂祭、見物女車出、紅衣、有司彈之。

〔續古事談二臣節〕堀河院御時、内ノ女房車、アマタ色々ノキヌ出シコボシテ、花見ニ花山へムカハレケリ。

〔長秋記〕大治四年正月九日戊子、攝政大相國藤原忠實、長女、從三位聖子入内云々。中主人乘唐車後

云々、出皆紅衣、件車本院河。唐車、當日女院入内給乗車也、不乘輦車、直乘之入給者。中

件車後衣、出自車左、前例車後人乘、右方、歟、後車人、女御母氏云々、

天承元年四月十九日己酉、賀茂祭也。中及未刻出御、兩院別車。中女房車五輛、下仕車一兩出、莒

蒲衣、紅打衣、歟、冬表衣、二藍唐衣裳、腰、件兩物付、金紋、

〔愚昧記〕仁安二年三月廿三日、午刻御幸、法勝寺新女御殿、令相具。中女御殿女房車三兩、紫衣染五

領、同打衣、松、同唐衣、歟、冬、同裳、腰、御車後出、歟、冬、白衣、

〔兵範記〕嘉應元年六月五日庚寅、建春門院滋。院號之後、初可有入内。中女房車、毛車十兩、各二人

乘之。出衣蘇芳、單重、紅打衣、女郎花表衣、
二藍唐衣、薄色裳、白腰張袴、著之、

〔増鏡九草枕〕十九日、文永十官廳政官。太へ行幸あり、女御代花山院よりいださる糸毛の車、寢殿の階

の間に、左大臣殿藤原大納言。藤原よせらる、みな紅の十五の衣、おなじひとへ、車のまより

いださる、

〔太平記〕天下怪異事

藤房卿進テ申サレケルハ、中兔角ノ御思案ニ及候ハ、夜モ深候ナン、早御忍候ヘトテ、御車ヲ

差寄三種ノ神器ヲ乗奉リ、下簾ヨリ出絹ヲ出シテ、女房車ノ體ニ見セ、主上後醍醐ヲ扶乘進ラセテ、